

日本建築学会北海道支部
2024年度 通常総会

日時 2024年5月17日(金)
会場 オンライン開催

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2024 年度総会議案

I 2023 年度事業報告

本資料に記載される「1. 支部運営の諸会合の開催～10. 建築関連団体との活動」(例年と同様)の事業を行った。

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため積極的にオンラインを活用することにより、予定した事業はほぼ中止することなく実施できた。オンライン開催により遠隔地からの参加を促した事業もあり、支部活動の活性化にとってオンライン技術の活用は有用であった。

1. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日	2023 年 5 月 19 日
会場	オンライン
参加者	33名

◆ 支部役員会

5 回開催(通信支部役員会含)

◆ 常任幹事会

5 回開催

◆ 選挙管理委員会

1 回開催

2. 学術系委員会の活動

2. 1 学術委員会(主査: 谷口尚弘, 委員数: 14名, 委員会開催数: 4回)

本委員会では、本部学術推進委員会の情報を伝達するとともに、各専門委員会および特定課題研究委員会から活動報告を受けた。支部研究発表会実行委員会、建築文化週間事業企画と道内工業高校巡回講演会への講師派遣に関して、審議を経て承認し、来年度の特定課題研究に関して、審議を経て推薦した。北海道支部技術賞を募集し、本委員会を母体とする技術賞選考委員会を設置し、表彰技術候補を選考した。本年度も委員会は全てオンライン開催とした。コロナ過が少しずつ納まってきているが、やむなく中止した事業もあった。各活動の詳細は、以下の通りである。

(1)研究補助金

・ 特定課題研究委員会

近現代建築研究委員会「小樽の戦後昭和の建築調査」主査: 鈴木 明世 君 2023-24 (継続)

・ 特定課題研究委員会

大工の熱環境調査委員会「住宅建設現場の労働衛生環境に関する基礎研究」主査: 佐々木 優二 君/2024-2025 (新規)

(2)北海道支部技術賞選考部会

2023 年度支部技術賞は、下記 4 件の応募(応募順・技術名のみ記載)があった。

- ① 「彩織/PLAT-HOME」における和格子耐力壁等の道産木材を用いた住宅規模での構造デザイン
- ② 鋼製ラチス梁「セラフレーム」
- ③ 札幌駅前通りの景観・賑わい創出と都心居住を両立する合理的な構造技術
- ④ 積雪寒冷地域における『ZEB』実現の一翼を担う太陽光発電設備と外断熱の事例紹介～ダイダン北海道支店「エネフィス北海道」～

上記の応募について、北海道の建築界の技術の向上に資するものであることを技術の性質に応じて、地域性、独自性、有効性、新規性、継承性、継続性等の観点に基づいて、表彰候補技術として、下記を選定した（選定理由は、支部技術賞の項目を参照）。

表彰技術名ー鋼製ラチス梁「セラフレーム」

(3)建築文化週間事業

2023年度事業として、歴意意匠専門委員会が、北海道開拓の村開村40周年「野外博物館の価値そしてこれから」という題材で2023年10月14日に講演会及び見学会を開催した。一般参加者が25名程であり、野外博物館の持つ価値などについて理解を深めた。

(4)支部研究発表会 技術パネル展

2023年度の支部研究発表会（会場：室蘭工業大学）を、対面方式で実施した。技術パネル展は開催しなかった。

(5)道内工業高校 巡回講演会への講師派遣

- ・北海道札幌工業高等学校建築科に、都市計画専門委員会 片山 めぐみ 君（札幌市立大学）を派遣し、講演「若い力がけん引する札幌発・ソーシャル・イノベーション」（2024年1月16日）実施した。参加者81名。
- ・北海道函館工業高等学校建築科に、環境工学専門委員会 魚住 昌広 君（北海道科学大学）を派遣し、講演「これからの環境とエネルギー」（2023年12月14日）を実施した。参加者38名

<今後の予定：担当専門委員会>

- ・2024年度：材料施工専門委員会，北方系住宅専門委員会
- ・2025年度：歴史意匠専門委員会，建築計画専門委員会

2. 2 専門委員会の活動

◆ 材料施工専門委員会 （主査：谷口 円，委員数：20名，委員会開催数：2回）

2023年度は、新型コロナウイルス感染症による数年来中止していた見学会を実施するなど、以下の活動を行った。

- ① 材料施工専門委員会について、オンラインで2回開催した（2023年9月7日，2024年2月29日 t）
- ② 構造専門委員会と共催で現場見学会を2回開催した。
道庁赤レンガ庁舎改修工事（構造専門委員会主催）
ベルーナ（仮称）札幌ホテル計画新築工事（材料施工専門委員会主催）

◆ 構造専門委員会 （主査：植松 武是，委員数：21名，委員会開催数：0回）

1. 構成委員数
21名

2. 委員会開催
未開催（メールによる各種情報共有）。

3. 幹事会
メール，電話にて適宜実施。

4. 講演会・講習会（2回）

日本鉄鋼連盟との共催にて、「日本と米国の鋼構造設計について（2023.7.12，講演者：首都大学東京 高木次郎氏）」と「組織設計事務所における実務（構造）について（2.23. 10.26，講演者：(株)三菱地所設計 川村浩氏）」を開催。

5. 現場見学会（2回）

材料施工専門委員会との共催で、「北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）の改修現場（2023.7.31）」と「ベルーナ(仮称)札幌ホテル計画新築工事（2023.12.1）」の見学会を実施。

6. 勉強会（1回）

「建築鋼構造フィールドスタディ（2023.12.15，主催：建築鋼構造研究ネットワーク北海道地区サブネットワーク）」へ後援として参画。

◆ 環境工学専門委員会（主査：魚住 昌広，委員数：17名，委員会開催数：3回）

- 1) 見学会「TAOYA (TAO 建築設計)」(2023/12/2, 札幌市内) を北方系住宅、建築計画専門委員会と共催。
- 2) 空衛学会北海道支部地区講演会「環境建築のための建築設備・環境工学研究と設計技術」(2023/12/13, 北海道大学学術交流会館)の開催を後援。
- 3) 高校巡回講演会講師を担当。函館工業高校(2023/12/14),札幌工業高校(2024/1/16)
- 4) 「第18回環境工学系・卒業論文発表会(EGGs'23)」(2024/3/6,札幌市立大学サテライトキャンパス+Zoom)を開催(演題30題,発表者36名)。

◆ 建築計画専門委員会（主査：石橋 達勇，委員数：12名，委員会開催数：2回）

今年度は勉強会「カミニシヴィレッジから地域に貢献する小学校跡活用手法を学ぶ」を3月11日(月)に実施した(参加者：委員4名)。これは小学校が廃校となる事例が増加している中で、当該施設が子育て支援に加えて地域貢献を主目的の一つとして整備・運営され、優れた跡活用事例として注目されていることによる。

◆ 都市計画専門委員会（主査：片山めぐみ，委員数：14名，委員会開催数：5回）

- 1) 構成委員数：14名
- 2) 委員会等開催数：5回(委員会：4回、公開まち歩き：1回)
- 3) 構成委員等：構成は民間6名，行政5名，学術3名である。
- 4) 活動の内容：委員会を奇数月(5,7,9,11)第3火曜日の18-19時に合計4回オンライン形式にて開催し、公開まち歩きを1回開催した。

第1・2回委員会では、今年度の活動方針を確認の上、主な活動として札幌の路傍樹を巡り都市計画における保存樹の活用促進について検討するまち歩きの会と研究会を公開で開催することを決定した。

第3回委員会では、札幌市立大学デザイン研究科の学生が制作した札幌市の景観資源動画「さっぽろ Scenery Stories」の発表会を開催し、札幌市の景観行政と教育活用について議論した。

第4回委員会は、札幌の路傍樹を整備しながら都心のまちづくりを進めた20年前の都市計画を学ぶ公開研究会を兼ねて実施した。講師として、東京都都市整備局都市づくり政策部 開発計画推進担当課長 飯箸俊一氏をお招きした。

◆ 歴史意匠専門委員会（主査：武田 明純，委員数：18名，委員会開催数：4回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として社会や住民に貢献する体制を整え活動した。具体的には、建築文化週間「北海道開拓の村 開村40周年記念イベント「野外博物館の価値 そしてこれから」」の開催、三笠市からの委託研究三笠市の炭鉱遺構群の現況調査、特定課題研究として小樽の戦後昭和の建築調査を行った。

◆ 北方系住宅専門委員会（主査：真境名達哉，委員数：11名，委員会開催数：1回）

構成委員数11名、委員会は遠隔会議において1回開催した。また、委員会以外では昨年度に続き、(1)「気候特性地域の住宅」というテーマで沖縄県建築家協会メンバーとの意見交換会および住宅見学会(10月12日)を行った。また(2)建築計画、環境工学委員会共同での住宅見学会を開催(12月2日)した。

◆ 都市防災専門委員会（主査：竹内 慎一，委員数：17名，委員会開催数：2回）

委員会を2回開催した。メールによる報告・審議等を5回実施した。北海道釧路総合振興局が開催した第12回くしろ安全住まいフェアに協力し、被害調査や防災学習等の支部活動を紹介するブースを出展した

2. 3 特定課題研究委員会の実施

(2022 年度より)

- ◆ 北方型住宅オープンクーリング研究委員会(主査：斉藤 雅也, 委員数：6名, 委員会開催数：3回)

本委員会の目的は、北海道内で普及する北方型住宅の熱性能を活かす、夏季の開放冷房：オープンクーリング(OC)手法を提案し、その有効性を明らかにすることによって温暖地向けに北方型住宅とOC手法の普及を図ることである。

2023年度は温暖地(東京都内)にある北方型住宅(等級6)を対象にOC時と非OC時の熱環境を実測した。外気温が33~35℃でOC時は窓開放により非OC時より排熱が促され、室温変動が約1℃以内と安定し平均放射温度も概ね25℃で一緒だった。窓開放によって気流がほどよく乱れることで、気流速度は約0.1m/秒以下で変動し可感気流はほぼなかった。フーリエ解析より、OC時の気流は約18秒に1回の波を形成し細かく変動し、自然な「涼しさ」感をもたらす手法であることが確認できた。

2. 4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2023 年度より)

- ◆ 近現代建築研究委員会(主査：鈴木 明世, 委員数：6名, 委員会開催数：5回)

小樽市建設部所有の戦後の公共建築図面の調査を行なった。また、解体が決定している小樽中央卸市場(昭和32年建設)に関して、現地調査および関係者へのヒアリング調査、建設当時の資料調査等を行なった。収集した設計図はデジタルスキャンを実施した。

成果報告：2024年度支部研で報告(D原稿)予定

3. 委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会(代表者)	委託者
2023.8.1	令和五年度三笠市炭鉱遺産調査及び図面調査業務委託研究	歴史意匠専門委員会 (主査 武田 明純)	三笠市

4. 支部研究発表会の実施(主査：斉藤 雅也, 実行委員会委員数：20名, 委員会開催数6回)

2023年度は支部研究発表会の企画・運営を目的として、特に新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を図りつつ、第96回北海道支部研究発表会を以下の通り実施した。

2023年6月24日(土)に室蘭工業大学を会場として、一般研究発表会のほか、特別企画を実施した。一般研究発表会は発表総数115題であった。特別企画は「北のすまいとこれから」と題して、パネラーに白井康永氏(北海道住宅新聞)・森太郎(北海道大学)・小倉寛征(Sa Design Office)を迎えて盛況に終えた。

5. 表彰

5. 1 北海道建築賞

- (1) 北海道建築賞委員会(主査：小澤 丈夫 委員5名 委員会開催数：3回 現地審査：3回)

委員会は1975年、北海道支部に報奨制度が設けられて以来、道内に建てられた建築(アーバン・デザイン等の領域も含む)の中から本賞・奨励賞にふさわしい作品を選考しており、2023年度で48回目となった。選考においては作品の有する「先進性」「規範性」「洗練度」の3つの視点

を基本的な評価軸としている。本委員会は 5 名で運営しているが、今年度は委員が応募作品に関与した作品（応募者ではない）があったため、日本建築学会が定める『3.3.20 論文・作品の発表の場におけるピアレビューに関する倫理規定』を遵守する観点から、当該作品の審査時に当該委員は退席し、選考に関わらないこととした。4月14日（金）の応募開始から10月27日（金）の表彰式および受賞記念講演会まで、以下に示す一連の活動を通して第48回北海道建築賞を実施した。

5月15日（金）：第1回委員会 審査方法・スケジュール等の確認。

5月25日（水）：第2回委員会 応募が9作品あったが、1作品について「主たる設計者」として記載された設計者全員の応募に対する同意が得られていないことが確認されたため、応募者に確認の上不受理とし、残る8作品を審査対象にすることを決定した。さらに、書類審査によって現地審査対象作品として4作品を選定した。

7月13日（木）：第1回現地審査「北海道科学大学高等学校」（札幌市）

7月23日（日）：第2回現地審査「鷹栖地区住民センター」（鷹栖町）

8月9日（月）：第3回現地審査「Showcase」（札幌市）、「河畔の家」（札幌市）

8月25日（金）：第3回委員会 現地審査を踏まえて最終選考を行い、以下の通り決定した。

- ・建築賞：「Showcase」（久野浩志/久野浩志建築設計事務所）
- ・北海道建築奨励賞：該当なし

10月27日（金）：表彰式・受賞記念講演会、記念パネルディスカッション。北海道大学遠友学舎にて開催。例年通り、建築文化週間の公開行事とし、一般市民、学生、大学関係者、建築業界関係者など約50人が参加した。

審査員

主 査：小澤 丈夫

委 員：河合 有人、松島 潤平、山田 深、山脇 克彦

2023年度北海道建築賞（第48回）の審査結果

北海道建築賞 ；「Showcase」（久野浩志/久野浩志建築設計事務所）

北海道建築奨励賞： 該当なし

5. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

（1）卒業設計優秀作品審査委員会（主査：菅原 秀見，委員数：6名，委員会開催数：1回）

2023年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に候補作品各々について合同で審査を行い、合議の上各賞を選出した。今年度は昨年度と同様にデータにて作品の提出を受け、事前に作品を共有したうえで、審査自体は対面で行った。審査に先立って学会の表彰規定における表彰の目的、それに基づく審査の考え方を各審査委員で確認した。

本年度は「大学」の部では金賞を1点、銀賞の該当作品がなく銅賞を2点選定した。「短大・高専・専門学校」の部では金賞を2点、銀賞1点、銅賞1点を「工業高校」の部では金賞1点、銀賞1点、銅賞2点を選出した。審査後、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員

主 査：菅原 秀見

委 員：遠藤謙一良，小倉 寛征，小西 彦仁，齊藤 文彦，中山 眞琴

（2）受賞者

◆ 大学の部 （応募作品数：14点）

- ・金賞 小濱 嘉耶殿：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — カイロスの霧—内的時間と外的時間の関係に対する探求—
- ・銅賞 金子 千裕殿：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — 穹—空から考える空間設計のありかた—
- ・銅賞 森 皓星殿：室蘭工業大学理工学部創造工学科建築土木工学コース
作品名 — 泛ぶ記憶の箱船

◆ 短大・高専・専門学校の一部 （応募作品数：7点）

- ・金賞 三橋 優祐殿：釧路工業高等専門学校創造工学科建築デザインコース
作品名 — 気づきの立方体モデル—不登校児童・生徒の現状から考えるこれからの学びの場—
- ・金賞 遠藤 綾子殿：北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — 季々紡ぐ、都市の杜
—都市と自然を、柔らかく繋ぐ建築を提案する—
- ・銀賞 右田 孝太殿：釧路工業高等専門学校創造工学科建築デザインコース建築学分野
作品名 — ～藍で人をつなぐ～「道の駅おうめ」
- ・銅賞 山川 愛良殿：北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — 洄結
～市街地と自然をつなぐ渡し場の計画～

◆ 工業高校の一部 （応募作品数：4点）

- ・金賞 大西 葉月殿：北海道旭川工業高等学校建築科
作品名 — Break spot
- ・銅賞 山口 心愛殿：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 — ホテル藤ノ花
- ・銅賞 池野 芽久殿：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 — 商店街風商業施設
—アーケードが紡ぐ地域の和
- ・銅賞 山本 幸輝殿：北海道旭川工業高等学校建築科
作品名 — warm comfort～四つの一巡り～

(3) 審査講評

◆大学の部

金賞・小濱 嘉耶殿

人間が生きているということは時間軸の中に存在していて、そこには内的時間と外的時間が交差しその両時間の中で我々は生きている。

その関係が日常の都市の中に受動的に作られるのであればより豊かな毎日を過ごせるのではないかとの考えで今回の計画がなされた。人々が公共交通機関を利用するために外的時間と内的時間の関係が希薄な札幌駅前の空き地にあえて「霧」的空間が展開され、メタルファブリックと称すメッシュのレイヤーが重なり、メッシュとの距離あるいは居場所によりさまざまな透過の変化と時空間を与えてくれる。この空間を通過するあるいは浸ることでモノローグから抜け出しダイア

ローグの世界へと自然誘導されるというコンセプトに共感する。
最高位にふさわしい巧みな作品である。

(文責：小西 彦仁)

銅賞・金子 千裕殿

人と空の関係を徹底的に追求し、装置としての空間に落とし込むことができた力作である。物理的にも精神的にも空の存在が日常から遠ざかっていることに問題意識を感じているところから発想しているのだろうが、歴史的に空と人がどのようにかかわってきたか、という分析や地下と空をつなぐ場所の設定、日常の動線で空を感じさせるシーン設定などにこの装置を実現させようとする強い意志を感じる。また、この装置を構成するパネルの素材選定により、反射、透過などの効果により多様な空を見せようとする技術的な検証も評価に値する。

(文責：菅原 秀見)

銅賞・森 皓星殿

木曽川の古くからの治水の歴史の中で形成されたケレップ水制群と、豊かな自然環境である「ワンド」が近年荒廃化、減少化している中で、古くからの土木技術を再考し、木曽川の風景について、生態系を乱さない形式で体感する施設の提案である。

古来より工夫され治水の中で生まれた技術を組み合わせ、河川の水位により時に水没し、また自然に復元される自然環境と、ヨシで葺かれた切妻の初源的形、ヨシが草原に浮かぶ風景は、時空の中で一体化する建築となり、幾重の歴史(技術・妻材・営み等)と記憶を現代想起され、歴史と風土をつなぐ計画となっている。

日本の初源的建築群は意匠的にも固有の力を感じ、この優れた作品を銅賞とする。

(文責：遠藤謙一良)

◆短大・高専・専門学校の部

金賞・三橋 優祐殿

気づきの立方体モデルー不登校児童・生徒の現状から考えるこれからの学びの場

今回の卒業設計の作品群の中で大学も含めて一番の作品レベルであったように思う。形態のしなやかさ、躍動感、分析力、コンセプトの進行していく力、全て何か新しいものを感じた。立方体が補佐的なリボン状の道路によって立体力をさらに高める方法は思わず頷けるものがあつた。異物ともいえるこのリボン状の道路(空中回廊)は単純な立方体や形態を有効につなぎ豊かさの別次元をつくりあげている。そのもつ影もなんとなく木々と融解し更に新しい風景をつくりだしている。

(文責：中山 眞琴)

金賞・遠藤 綾子殿

札幌の円山公園は、市民によって作られた歴史ある都市のフリンジである。そこでは、様々な歳時記の舞台となっており、札幌ならではの歴史と文化を感じる場となっている。本計画は、この公園の特徴に加え、日常の活動にも目を向け、現代の生活に相応しいものにアップグレードすることを提案である。自然になじむ柔らかな形状と内外での活動が公園の日常を市民に開放するだけでなく、公園の魅力がより高まるよう、いくつかの場の提案もある。都市と自然に限らず、人と人、文化と歴史をも柔らかく繋ぐことにもなっている点が優れている。さらに美しい表現により簡潔にまとめられた力量は大変高く、ここに短大・高専・専門学校の部の金賞とする。

(文責：斎藤 文彦)

銀賞・右田 孝太殿

青梅の特産であった藍染の工房を中心に、中心市街地空洞化や交通渋滞などの都市的課題と、過疎化や高齢化などの社会的課題を、建築の力により解決しようとする「道の駅」の提案である。人々を優しく受け入れるような円弧を用いた優しい建築形態、木造によるシンプルでありながらも懐かしい印象を与える空間などに優れた造形力が感じられた。また、建築だけではなく、藍染ストリート計画や外構・植栽まで丁寧に描くなど、細部にこだわる誠実な設計姿勢が読み取れた。さらに、10年後の道の駅と青梅駅周辺とあり方まで提示するなど、地域への思いが感じられた。上記のような広範な提案を、分かりやすくまとめ上げたプレゼンテーションも評価に値する。以上の点より、銀賞がふさわしいと判断した。

(文責：小倉 寛征)

銅賞・山川 愛良殿

石狩の茨戸川の河口近くの花川側の市街地と生振川の農地の両岸に計画され、自然を保全するための施設をメインに両岸を行き来する渡し船の船着場としての機能も持たせている。この場所の海や植物などを保全しながら計画された建築は、自然保護に注意深く着眼した建築物のシルエットを極力消すための細かな操作など建築全体からディテールまで周到に計画されている。水彩によるプレゼンテーションドローイングもこの計画にふさわしく感じた。しかし残念ながら建築と自然の融合や対岸の建築どうしの関係が弱く銅賞になったが今後の成長が楽しみである。

(文責：小西 彦仁)

◆ 工業高校の部

金賞・大西 葉月殿

旭川買物公園に隣接する図書機能を備えた休憩施設である。4条通り以北になかなか人がいかないという認識を背景とする発想だが、人を呼び込む動線計画、内部空間のレベル設定が巧妙であり、建築計画としての空間の骨格がしっかりしている。樹木を中心とする広場、それを囲むように建つ施設に人が集う光景が想像され、この建築がまちの一つの光景として定着するように思われる。施設の建築計画を超え、まちづくりの視点でとらえているところが高く評価された作品である。

(文責：菅原 秀見)

銅賞・山口 心愛殿

函館市内に計画された滞在型の温泉宿泊施設である。プランは、庭を縁側から望む環境に宿泊室を設け、パブリックゾーンはサウナゾーンとプライベートゾーンに分けられ、明快なプラン構成となっている。外観は畳を有する客室にふさわしい入母屋の屋根と、外壁に真壁的構造が強調され、開口部廻りの格子と障子による趣きのある表現が、藤棚と相まって館名にふさわしい計画となっている。蔵のイメージの別館もゆったりとした時間を過ごす工夫がなされ、宿泊施設のコンセプトをしっかり計画されており、銅賞にふさわしい表現として評価する。

(文責：遠藤謙一良)

銅賞・池野 芽久殿

函館市西部地区が観光地化しつつも生活の場としての利便性が低くなっていることに対して、地域住民の生活や交流の場となるような施設の提案である。地域の景観に配慮した外観や、商店街となるような商業施設の計画に加え、学童保育やアトリエ、カフェなども入る複合施設となっている。地域の課題に対し、真摯に向き合っているだけでなく、各図面やパース、模型などどれもしっかり表現され、まとめられている。高等学校の卒業設計として、優れていることから、「工業高校」の部の銅賞に相応しいと判断した。

(文責：斎藤 文彦)

銅賞・山本 幸輝殿

気軽に集える場所が少ないと感じた北彩都における、ゆっくりできる温泉、カピバラとの触れ合いの場、若い人たちのプレイスペース、家のように寛げるホテルといった、4つの機能の複合施設の提案である。大規模な建築であるが、敷地に高低差や大階段を設けることで、親しみやすいスケール感と周辺環境への配慮を実現している。一方で、周辺からの視線を考慮してデザインした露天風呂、高低差や様々なスケールの空間を利用した広場、居心地の良さを考えて素材選定した内装など、細部までデザインされている。以上の点より、銅賞がふさわしいと判断した。

(文責：小倉 寛征)

5. 3 優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

2023年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

飛澤 圭亮殿・角 洋希殿：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
渡辺 倫大殿・福田 涼太殿：北海学園大学工学部建築学科
半田 晃平殿・桐山 凧沙殿：北海道科学大学工学部建築学科
中尾 笑生殿・木村 月姫殿：室蘭工業大学理工学部創造工学科建築土木工学コース

建築学トラック

佐藤 舜殿・大江 輔殿：東海大学国際文化学部デザイン文化学科
井上 広大殿・藤澤 聖太殿：星槎道都大学美術学部建築学科
加藤ふらの殿・近藤 花殿：札幌市立大学デザイン学部デザイン学科
人間空間デザインコース

本庄 幹空殿・松井 雄生殿：釧路工業高等専門学校創造工学科建築デザインコース
目黒 祈夢殿：北海道職業能力開発大学校建築施工システム技術科
星賀 唯花殿：北海道職業能力開発大学校建築科
笠井 淳司殿：北海道札幌工業高等学校建築科
加藤遼汰朗殿：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
津川 楓殿：北海道小樽未来創造高等学校建設システム科
該当者なし：北海道小樽未来創造高等学校定時制電気・建築科
加藤 直也殿：北海道函館工業高等学校建築科
千葉 武尊殿：北海道旭川工業高等学校建築科
米山 凌悟殿：北海道旭川工業高等学校定時制建築・土木科
萩原 煌太殿：北海道苫小牧工業高等学校建築科
対馬 直樹殿：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
田中 菖殿：北海道帯広工業高等学校建築科
山本 悠人殿：北海道釧路工業高等学校建築科
橋本陽南太殿：北海道名寄産業高等学校機械・建築システム科
岡崎 武殿：北海道室蘭工業高等学校建築科
中舘 楓殿：北海道留萌高等学校電気・建築科
眞野 拓登殿：北海道北見工業高等学校建設科

5. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。今後も該当する法人・賛助会員等を引き続き表彰する予定である。

5. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

(1) 北海道支部技術賞選考委員会（主査：谷口 尚弘，委員数：10名 委員会開催数2回）
選考委員：支部長，学術委員会委員長，専門委員会主査の計10名

(2) 受賞者

◆北海道支部技術賞

表彰技術名ー鋼製ラチス梁「セラフレーム」

世良鉄工株式会社殿

三上 正幸殿：世良鉄工株式会社

松永 佳久殿：アドバイザー

田沼 吉伸殿：北海道科学大学名誉教授

前田憲太郎殿：北海道科学大学工学部建築学科

(3) 審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて、支部技術賞選考部会を構成する委員を確認し、選考部会を計2回開催（オンライン会議）。技術賞選考部会では、応募のあった4件の内容について協議した。

応募された技術名称：

② 「彩織／PLAT・HOME」における和格子耐力壁等の道産木材を用いた住宅規模での構造デザイン

- ② 鋼製ラチス梁「セラフレーム」
- ③ 札幌駅前通りの景観・賑わい創出と都心居住を両立する合理的な構造技術
- ④ 積雪寒冷地域における『ZEB』実現の一翼を担う太陽光発電設備と外断熱の事例紹介
～ダイダン北海道支店「エネフィス北海道」～

第1回の技術賞選考部会は、募集要領の選考基準に定められる、地域性、独自性、有効性、新規性、継承性、継続性等の観点に基づいて、技術内容を把握した。その結果、各応募技術について、技術内容等について裏付ける追加情報の提供を依頼することとした。

第2回の技術賞選考部会は、提出のあった追加資料を併せて、技術内容について再度各選考委員で議論し、鋼製ラチス梁「セラフレーム」を技術賞表彰候補にふさわしいと評価した。その評価理由は、下記の通りである。

寒冷地である北海道での木造住宅大引きについての地盤凍結による凍上被害対策として、溶接亜鉛メッキされた「鋼製ラチス梁（セラフレーム）」を1989年から改良しつづけて、束を不要とする技術を実現させた。この開発された「鋼製ラチス梁（セラフレーム）」は、北海道における住宅の不具合解消とともに、北方圏では必要不可欠な暖房システム・換気システムなどの配管をラチス材の隙間から通すといった配管施工も容易とし、さらに地中杭施工や作業工程を削減し工期短縮、製作においても生産技術を探求し、製品の寸法精度や品質のばらつきが少ない生産体制も確立した。以上のことから、長年における技術開発の創意工夫や展開性・発展性も評価し、2023年度日本建築学会北海道支部技術賞候補として評価した。

後日、支部役員会において、技術賞選考委員会から技術賞表彰候補として報告し、審議の結果、2023年度日本建築学会北海道支部技術賞に決まった。

（文責 谷口 尚弘）

6. 北海道建築作品発表会の実施

（1）北海道建築作品発表会委員会（主査：植田 暁，委員数：6名，実行委員数：14名，委員会開催数：5回）

2023年12月2日（土曜）に北海道建築作品発表会を開催した。新型コロナウイルス感染症が感染症法上の第5類に移行したことを踏まえつつも、感染拡大が起りやすい季節の実施であることを勘案し、昨年から引き続き北海道大学工学部共用実験棟（建築都市スタジオ棟）を会場とした。

2019年までのような開かれた発表会に再び戻るきっかけとなるよう、発表者1名につき1名の同伴者を可能とした上、会場の様子を昨年同様にインターネット回線でも視聴可能とした。その結果、会場には約50名が参集、インターネット視聴者は約100名を数えた。

会は3部構成とし、間に2回の休憩時間を挟んだ。第1部、第2部を作品発表の場とし、応募者数26名が計32作品を発表した。第1部の司会は赤坂真一郎、岩澤浩一両実行委員、第2部は池村菜々、

佐々木夕介両実行委員が担当した。第3部では岩澤浩一委員による全作品の傾向を俯瞰した上で、主だったテーマに沿って質疑応答をするフォーラムを、植田暁、石塚和彦、濱口芳郎の各委員の司会で開催した。

この他、第43回建築作品発表会作品集VOL-43を刊行、発表会の内容については、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」2023年12月号に実行委員の鈴木理委員が、日本建築学会「建築雑誌」2024年2月号に内藤誠人委員が執筆した。

発表者、発表会当日を進行する実行委員双方の顔ぶれに、若い世代の存在感を感じられる北海道建築作品発表会となった。

（2）北海道建築作品発表会の開催

期日：2023年12月2日（土曜日）13時～

会場：北海道大学工学部共用実験棟（建築都市スタジオ棟）

発表作品：32作品

7. 特別委員会

7. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業系担当常議員）

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中での可能な連携がとられ、活動に関し役員会への報告を行っている。本年度についても建築文化週間として北海道建築賞表彰式と記念講演会が実施され印刷物やHPで公表されている。また、北海道建築作品発表会は作品集の刊行、卒業設計審査委員会からは入選作品のHP掲載がされるなど公表されている。

7. 2 総務委員会（委員長：森 傑、担当常議員、委員会開催数：1回）

経理関連業務としては、支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理を行った。収支状況について、四半期に一度の頻度で、常議員会にて報告した。

7. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎、幹事：齊藤 雅也、委員数：2名、メール等による情報交換を数回実施）

- 1) 常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なった。
- 2) イベント周知、報告等のFacebookページの更新作業を行った。
- 3) 各委員会ページの名簿、活動内容について見直しを行った。
- 4) 建築学会大会の情報に関して保存活用の方針について議論を行った。
- 5) 支部のHPの今後の管理方針について議論を行った。

7. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子café）（主査：野村 理恵、委員数：11名、委員会開催数：1回）

道内の学生に向けて建築分野での仕事や生活の経験を共有する機会として、「先輩に聞いてみよう！ワークライフバランスって何？vol.2」を2023年5月18日にオンライン開催した。参加者は24名(学生18名)であった。男女いずれも自分ごととしてキャリアや生活について考える内容として好評を得た。

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8. 1 講習会

(1) 本部主催講習会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2023. 11. 19	2023年度調査研究委員会 「寒中コンクリート施工指針」改定講習会	北海道建設会館	濱 幸雄 他3名	130名

(2) 支部主催講習会

(3) 支部委員会主催講習会（セミナー）

該当なし

8. 2 講演会

(1) 本部主催講演会

該当なし

(2) 支部主催講演会等

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2023. 5. 18	「先輩に聞いてみよう！ワークライフバランスって何？vol. 2」	オンライン	大坂 崇徳 他2名	24名
2023. 10. 27	建築文化週間「第47回北海道建築賞表彰式・記念講演会」	北海道大学遠友学舎	久野 浩志 他2名	50名
12. 2	第42回北海道建築作品発表会（作品数28点）	北海道大学工学部建築都市スタジオ棟+オンライン		138名 [うちオンライン100名]
12. 14	これからの環境とエネルギー	北海道函館工業高等学校	魚住 昌広	38名
2024. 1. 16	若い力がけん引する札幌発・ソーシャル・イノベーション	北海道札幌工業高等学校	片山めぐみ	81名

(3) 支部委員会主催講演会等

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2023. 7. 16	日本と米国の構造設計について（構造専門委員会・日本鉄鋼連盟）	北海道大学工学部オープンホール	高木 次郎	56名
2023. 10. 14	建築文化週間「北海道開拓の村開村40周年「野外博物館の価値 そしてこれから」（歴史意匠専門委員会）	開拓の村	中川 武 中島 宏一 委員会委員	24名
2023. 10. 26	組織事務所における実務（構造）について（構造専門委員会・日本鉄鋼連盟）	北海道大学工学部B棟B32教室	川村 浩	40名
3. 11	勉強会「カミニシヴィレッジから地域に貢献する小学校跡活用手法を学ぶ」（建築計画専門委員会）	カミニシヴィレッジ	大谷 壮史	4名
3. 6	第18回環境工学系・卒業論文発表会EGGs22（環境工学専門委員会）	札幌市立大学サテライトキャンパス+オンライン	発表題数29 題	57名

8. 3 見学会

開催日	見 学 場 所	解説者	参加者数	主 催
2023. 7. 31	北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）	榊竹中工務店	28名	構造専門委員会 材料施工専門委員会
2023. 12. 1	「ベルーナ(仮称)札幌ホテル計画新築工事」	有江 暢亮	18名	材料施工専門委員会
2023. 12. 2	これからの住まいと暮らしを考える住宅見学会	TAO 建築設計	13名	北方系住宅専門委員会 建築計画専門委員会 環境工学専門委員会

8. 4 展示会

開催日	名称	会場	参加者数
2023. 5. 17～ 2023. 10. 5	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	186名 130名 オンライン
2023. 6 ～2024. 3	道内工業高校卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 11 校	オンライン

9. 本部関連事業・その他

9. 1 2022 年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 支部共通事業設計競技審査委員会（主査：山田 良，委員数：5 名，委員会開催数：1 回）

委員会活動として設計競技審査会を 2023 年 7 月 4 日にオンラインにて、6 名の審査委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「環境と建築」であり、11 案の応募があった。北海道を舞台とした応募案に見られる、大地の成す環境の解釈と可能性について活発な議論が行われた。委員全員による厳正な審査を経て 4 案を支部入選案として決定した。全国審査では、大谷大海君（室蘭工大）らの案が佳作入選を果たした。引き続き北海道支部への応募数増と全国入選への躍進にも期待したい。

支部審査員：

主 査： 山田 良

委 員： 赤坂 真一郎，久野 浩志，小西 彦仁，松島 潤平，山之内 裕一

(2) 審査講評

2023 年度支部共通設計競技「環境と建築」審査評

全国入選

・「ケ、時々ハレ」

大谷大海（室蘭工業大学大学院）他2名案

スタジアム建築は時々使われるいわば特別な空間であり、作者はこれを「ハレ」と想定し、毎日使われる学校を「ケ」とした。人口縮小社会における多様な市民の受け皿となる環境を創り出す装置として、この二つの用途を合わせることで「ハレとケ」の新たな空間を生み出している。この手法により生まれた空間は街に新たな風景をつくりだし、それはいずれ周辺環境となり社会に馴染むことだろう。それこそが本当の意味で建築が環境の一部になった証であり同時にサステイナビリティをも生み出す。この計画はその可能性を持っている。

（文責：小西彦仁）

支部入選

・「陸屋根下の環境」

岩澤浩一（北海道科学大学）他1名案

一辺が 11m の四角形の陸屋根の下に明るく広々とした空間を作り出し、その中に小屋のような 4 つの個室と小さな中庭を分散配置する提案である。内部空間は、ほど良い直接光と間接光で満たされた気持ちのよい空間になるであろう。北海道の冬をイメージすると、大きな屋根がつくるおおらかな空間の豊かさを取り戻そうとするテーマに対して十分な解答を提示している。一方で、冬以外に気持ちのよい外部環境がある北海道において、建物四周に残された奥行き 3メートルほどの外部との関係について語られていないのは残念である。建物を建てない選択をした場所にも何らかの解答を示すべきである。各個室の居心地、特に通風についても疑問が残る。

（文責：久野 浩志）

・「Skyscope」

相馬功希（札幌市立大学）

空を穿つ煙突のような「スコープ」を中心に、生活を内包する箱が、屋内外を横断しながら二重螺旋状に巻き付いた住宅。

空という大きな「地」に建築の凹凸が「図」を描くとき、それらは創造的關係にあると設計者は言う。凹凸の一部を成すスコープの内側は、空と地面を強く関係づける環境装置として機能しているが、提案された建築においてそれを体験できる場は限られている。見えないが故の意識の拡張によって、作者は人と住まいの間にも創造的關係を生み出そうとしているのだろうか。

課題を壮大に捉え、建築の内部にまで思いが至っていない提案が多い中で、謎掛けのような空間構成を持つ小住宅が、不思議な魅力を放っていた。

(文責：赤坂真一郎)

・「北ノ旅人」－新たな環境と出会う廃線を用いた移動式住居の提案－

太田優人（日本大学）他1名案

『環境と建築』にむけて「移動式住居」で応えている。移動を叶えるのは北海道内で避けられず連続してしまっている「廃線」である。鉄道に宿る物語、道北の風景に佇む生活、移動によって生まれるであろう出会いを美しく完成度の高いドローイングで表現している。移動しながら住むこと、これは理想形のひとつでありながら相容れない形式でもある。提案はこの形式をポジティブに転換し、環境を求め、選び、運ぶなどのキーワードについてユニット設計を伴い可視化している。魅力的な図面だけに市街地での暮らし、運用方法などにも興味を沸いた。自らの部屋が広大な風景へ流れ入る瞬間は想像を超えたものであろう。

(文責：山田 良)

9. 2 作品選集支部選考の実施

(1) 作品選集支部選考部会活動報告（主査：真境名達哉：委員数7名：委員会開催数2回および現地審査6回）

2023年応募総数は12作品で、内訳はホテル1、幼稚園1、庁舎2、事務所5、住宅2、住宅系関連1であった。6月27日に第1回支部選考部会を開催し、8作品を現地審査対象作品として選出し、委員は分担して現地審査を行った。8月7日の第2回支部選考委員会にて現地審査の報告を行い、「北海道らしさ」の視点も加え投票を行った。本部への推薦は4作品を選出した。本部の選定においても、選出作品については高い評価を得ることができ、全作品は作品選集に掲載することができた。

支部審査員：

主査：真境名達哉

委員：小倉 寛征、小篠 隆生、菊田 弘輝、前田 芳伸、松島 潤平

(2) 作品選集支部選考の結果

北海道支部応募数：12点

支部選考結果（本部への推薦）4点

本部採用・作品選集掲載作品数：4点

作品選集への掲載作品

・北海道地区 FM センター

本井 和彦殿：竹中工務店

垣田 淳殿：竹中工務店

金田 崇興殿：竹中工務店

川幡 祥太殿：竹中工務店

・浦河フレンド森のようちえん

照井 康穂殿：照井康穂建築設計事務所

徐 光殿：ジェーエスディー

・古平町複合施設 かなえーる

高橋 章夫殿：大成建設一級建築士事務所

杉野 宏樹殿：大成建設一級建築士事務所

- 小山 智子殿 : 大成建設一級建築士事務所
 藤間 一憲殿 : 大成建設一級建築士事務所
 山本 進殿 : 大成建設一級建築士事務所
 ・芽室町役場庁舎
 加藤 誠殿 : アトリエブंक
 池村 菜々殿 : アトリエブंक
 金箱 温春殿 : アトリエブंक

9. 3 建築文化週間

建築文化週間 2023

①テーマ：見学会・講演会「北海道開拓の村開村 40 周年「野外博物館の価値 そしてこれから」

主 催：日本建築学会北海道支部

日 時：2023.10.14（土）13:00～16:00

会場および見学先：

野外博物館 北海道開拓の村

1) 見学会

日 時：2023.10.14（土）13:00～14:00

解説者：日本建築学会北海道支部歴史意匠専門委員会委員

2) 講演会

日 時：2023.10.14（土）14:00～16:00

講 師：中川 武（博物館明治村館長／早稲田大学名誉教授）

中島宏一（北海道開拓の村館長）

参加者：24 名

②テーマ：第 48 回（2023 年度）北海道建築賞表彰式・記念講演会

主 催：北海道支部

日 時：2023.10.27（金）18:00～20:00

会 場：北海道大学遠友学舎（北海道札幌市北区北 18 条西 7）

講演者：久野浩志「showcase」（第 48 回北海道建築賞）

参加者：50 名

10. 建築関連団体との活動

10. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：5 名)

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項について協議。協議内容は、①AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、②両団体の活動内容、③両団体のイベント紹介と参加要請についてである。

なお、2023 年度は下記の企画を開催した。

○2023 年度 AIJ-JIA ジョイントセミナー

日時：2023 年 6 月 29 日（木）17:00～18:00 Zoom 開催

講師：菊地 優(北海道大学教授、前日本建築学会北海道支部支部長

演題：「今、免振が熱い」

司会：米田浩志 JIA 北海道支部建築学術グループリーダー

10. 2 北海道建築設計会議（幹事会開催数：12 回)

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術

協会の10団体により構成されている。本会からは、三崎利彦と古川和洋の2名を参加させた。幹事会においては、各団体と情報交換や意見交換を行った。

12. 共催・後援

1) 共 催

該当なし

2) 後 援

期 日	名 称	会 場	主 催
2023. 8. 25	建築家・安藤忠雄講演会「可能性は自分でつくれ」	共済ホール	国立大学法人北海道大学
2023. 9. 29 応募締切	第48回「北の住まい」住宅設計コンペ KITA SUMA		北海道建築士事務所協会
10. 4	「コンクリートの日 in HOKKAIDO出前講座 オンライン開催 大学から実務者へ～技術情報の発信と情報交換」	札幌駅前ビジネススペース・カンファレンスルーム	日本コンクリート工学会 北海道支部
12. 2	公益社団法人日本都市計画学会北海道支部2023年度研究発表会	北海道大学工学部アカデミックラウンジ	日本都市計画学会北海道支部
12. 13	2023年度地区講演会「環境建築の過去・現在・未来とその課題」	北海道大学学術交流会館	空気調和・衛生工学会北海道支部
12. 15	令和5年 建築鋼構造フィールド・スタディ(北海道地区) (支部構造専門委員会・材料施工専門委員会)	日本製鉄(株)北日本製鉄所室蘭地区 (株)日本製鋼所M&E室蘭	日本鉄鋼連盟建築鋼構造研究ネットワーク北海道地区
2024. 1. 14	「防災ワンデー」釧路防災講演会2024	釧路市観光国際交流センター	防災ワンデー実行委員会
3. 29	「寒冷環境下におけるコンクリートの品質・耐凍害性に関する研究委員会活動報告会」	札幌駅前ビジネススペース・カンファレンスルーム	日本コンクリート工学会 北海道支部

II 2023 年度収支決算報告

2023 年度 貸借対照表

2024年 3月31日現在

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I 資産の部				II 負債の部			
1 流動資産				1 流動負債			
現金預金	3,838,141	24,001,839	△20,163,698	未払金	0	0	0
未収金	10,000	0	10,000	前受金	46,200	58,300	△12,100
前払金	278,289	171,809	106,480	預り金	23,724	22,164	1,560
仮払金	52,383	43,126	9,257	板受金	2,953,806	585,628	2,368,178
				賞与引当金	0	0	0
流動資産合計	4,178,813	24,216,774	△20,037,961	流動負債合計	3,023,730	666,092	2,357,638
2 固定資産				2 固定負債			
(1) 基本財産	0	0	0	退職給付引当金	1,380,000	1,320,000	60,000
基本財産合計	0	0	0	固定負債合計	1,380,000	1,320,000	60,000
(2) 特定資産				負債の部合計	4,403,730	1,986,092	2,417,638
学術振興基金引当資産	8,110,000	4,200,000	3,910,000	III 正味財産の部			
災害調査研究基金引当資産	5,900,000	1,900,000	4,000,000	1 指定正味財産			
支部基金引当資産	10,610,000	2,610,000	8,000,000	指定正味財産合計	0	0	0
退職給付引当資産	1,380,000	1,320,000	60,000	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
特定資産合計	26,000,000	10,030,000	15,970,000	(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(3) その他の固定資産				2 一般正味財産	28,698,523	32,822,232	△4,123,709
敷金	2,923,440	561,550	2,361,890	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
その他の固定資産合計	2,923,440	561,550	2,361,890	(うち特定資産への充当額)	(24,620,000)	(8,710,000)	(15,910,000)
固定資産合計	28,923,440	10,591,550	18,331,890	正味財産合計	28,698,523	32,822,232	△4,123,709
資産の部合計	33,102,253	34,808,324	△1,706,071	負債及び正味財産合計	33,102,253	34,808,324	△1,706,071

2023 年度 正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から 2024年 3月31日まで

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部							
1. 他会計振替額							
交付金収入	(7,046,000)	(13,355,000)	(△6,309,000)				
支部費	1,701,000	1,737,000	△36,000				
支部経営助成費	1,830,000	1,860,000	△30,000				
事業促進費	300,000	300,000	0				
支部研究補助費	200,000	200,000	0				
教育文化事業交付金	556,000	552,000	4,000				
大会交付金	0	6,500,000	△6,500,000				
支部事務費	300,000	300,000	0				
支部事務所費	2,159,000	1,906,000	253,000				
他会計からの振替額計	7,046,000	13,355,000	△6,309,000				
2. 経常増減の部							
(1) 経常収益				(2) 経常費用			
(1) 実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)	(1) 実施事業会計	(1,025,579)	(1,125,718)	(△100,139)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)	調査研究事業	(364,038)	(279,515)	(84,493)
表彰関係	175,000	175,000	0	調査研究事業	364,038	279,515	84,493
(2) その他会計	(2,245,590)	(36,169,166)	(△34,223,876)	表彰・顕彰事業	(496,301)	(664,689)	(△168,388)
研究会事業	(1,745,590)	(35,969,166)	(△34,223,876)	表彰関係	492,759	662,720	△169,961
支部研究発表会	953,190	740,390	213,100	設計競技	3,542	1,969	1,573
建築作品発表会	782,100	666,250	115,850	社会対応事業	(165,240)	(181,484)	(△16,244)
過年度研究会事業	10,000	38,250	△28,250	文化事業	149,862	168,977	△19,115
大会事業費	0	34,524,576	△34,524,576	展示会事業	15,378	12,507	2,871
委託事業	(500,000)	(500,000)	(0)	(2) その他会計	(2,498,553)	(23,032,181)	(△20,533,628)
調査研究委託事業	500,000	500,000	(0)	研究会事業	(2,073,553)	(22,607,181)	(△20,533,628)
(3) 法人会計	(65,158)	(37,417)	(28,041)	支部研究発表会	997,253	459,836	537,417
特定資産運用益	(302)	(310)	(△8)	建築作品発表会	1,076,300	1,054,602	21,798
特定資産受取利息	302	310	△8	大会事業費	0	21,092,843	△21,092,843
雑収益	(65,156)	(37,107)	(28,049)	委託事業	(425,000)	(425,000)	(0)
受取利息	156	107	49	調査研究委託事業	425,000	425,000	0
雑収益	65,000	37,000	28,000	(3) 法人会計	(10,131,625)	(5,774,701)	(4,356,924)
				支部運営	(0)	(48,400)	(△48,400)
				支部総会	0	48,400	△48,400
				支部役員会	0	0	0
				運営管理委員会	0	0	0
				その他運営費	0	0	0
				支部事務運営	(10,131,625)	(5,726,301)	(4,405,324)
				給与手当	2,243,868	2,107,378	136,490
				退職給付費用	60,000	60,000	0
				法定福利厚生費	394,618	378,086	16,532
				福利厚生費	23,276	23,117	129
				通勤手当	184,440	184,440	0
				旅費交通費	14,170	8,590	5,880
				通信回線費	136,869	118,391	18,475
				発送運搬費	34,536	12,346	22,190
				消耗品費	76,763	29,721	47,042
				印刷費	77,351	29,253	48,098
				支払手数料	30,415	25,410	5,005
				貸貸料	129,008	119,449	9,559
				地代家賃	2,616,805	2,061,708	555,097
				水道光熱費	426,425	534,479	△108,054
				雑費その他	3,682,781	33,900	3,648,881
経常収益計	2,486,048	36,681,883	△34,195,835	経常費用計	13,655,757	29,932,600	△16,276,843
当期経常増減額	△11,169,709	6,749,283	△17,918,992				
当期一般正味財産増減額	△4,123,709	20,104,283	△24,227,992				
一般正味財産期首残高	32,822,232	12,717,949	20,104,283				
一般正味財産期末残高	28,698,523	32,822,232	△4,123,709				
II. 指定正味財産増減の部							
指定正味財産期末残高	(0)	(0)	(0)				
III. 正味財産期末残高							
正味財産期末残高	28,698,523	32,822,232	△4,123,709				

2023年度 正味財産増減計算書（決算-予算対比）

2023年4月1日 ～ 2024年3月31日

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
（特定資産運用益）	(1,000)	(302)	(698)
特定資産受取利息	1,000	302	698
（事業収益）	(2,407,000)	(2,420,590)	(Δ 13,590)
掲載・発表登録収益	1,832,000	1,635,700	196,300
書籍・資料収益	400,000	109,890	290,110
受託収益	0	500,000	Δ 500,000
協賛金・共催分担金	175,000	175,000	0
（雑収益）	(50,000)	(65,156)	(Δ 15,156)
受取利息	0	156	Δ 156
雑収益	50,000	65,000	Δ 15,000
経常収益計	2,458,000	2,486,048	Δ 28,048
(2) 経常費用			
（事業費）	(3,995,000)	(3,524,132)	(470,868)
臨時雇用賃金	50,000	110,000	Δ 60,000
旅費交通費	725,000	595,885	129,115
発送運搬費	180,000	104,224	75,776
消耗品費	0	203,327	Δ 203,327
印刷費	2,240,000	1,391,252	848,748
会議費	95,000	115,564	Δ 20,564
表彰費	290,000	59,400	230,600
外注費	0	911,900	Δ 911,900
諸謝金	80,000	22,274	57,726
支払手数料	0	110	Δ 110
保険料	0	9,796	Δ 9,796
租税公課	0	400	Δ 400
雑費	335,000	0	335,000
（管理費）	(6,261,000)	(10,131,625)	(Δ 3,870,625)
給与手当	2,210,000	2,243,868	Δ 33,868
退職給付費用	60,000	60,000	0
臨時雇用賃金	0	46,000	Δ 46,000
法定福利費	401,000	394,618	6,382
福利厚生費	30,000	23,276	6,724
通勤手当	184,000	184,440	Δ 440
旅費交通費	42,000	14,470	27,530
通信回線費	130,000	136,869	Δ 6,869
発送運搬費	25,000	34,536	Δ 9,536
消耗品費	40,000	76,763	Δ 36,763
印刷費	105,000	77,351	27,649
会議費	95,000	14,800	80,200
外注費	0	95,389	Δ 95,389
地代家賃	2,061,000	2,616,805	Δ 555,805
水道光熱費	660,000	426,425	233,575
支払手数料	25,000	30,415	Δ 5,415
賃借料	135,000	129,008	5,992
租税公課	0	48	Δ 48
雑費	58,000	3,526,544	Δ 3,468,544
経常費用計	10,256,000	13,655,757	Δ 3,399,757
評価損益調整前経常増減額	Δ 7,798,000	Δ 11,169,709	3,371,709
当期経常増減額	Δ 7,798,000	Δ 11,169,709	3,371,709
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
交付金収入	6,740,000	7,046,000	△ 306,000
他会計振替額	6,740,000	7,046,000	△ 306,000
税引前当期一般正味財産増減額	△ 1,058,000	△ 4,123,709	3,065,709
当期一般正味財産増減額	△ 1,058,000	△ 4,123,709	3,065,709
一般正味財産期首残高	32,148,000	32,822,232	△ 674,232
一般正味財産期末残高	31,090,000	28,698,523	2,391,477
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高			
正味財産期末残高	31,090,000	28,698,523	2,391,477

「支部役員会一覧」

支部長（2022.6.1～2024.5.31）

小澤 丈夫（北海道大学教授）

常議員（2022.6.1～2024.5.31）

※金子 晋也（札幌市立大学准教授）

佐伯 健一（北海道札幌工業高等学校教諭）

十河 昌司（㈱石本建築事務所エンジニアリング部門技術グループ主任）

※高嶋 一穂（㈱竹中工務店北海道支店設計部設計2グループ長）

大田 司（DAIDA DESIGN STUDIO 代表）

福田 菜々（北海道科学大学准教授）

三崎 利彦（大成建設㈱札幌支店建築部作業所長）

常議員（2023.6.1～2025.5.31）

※北垣 亮馬（北海道大学教授）

工藤 省吾（北海道総務部人事局職員厚生課課長補佐）

小柳 秀光（北海学園大学教授）

照井 康穂（㈱照井康穂建築設計事務所代表取締役）

※宮崎 俊亮（清水建設㈱北海道支店設計部グループ長）

古川 和洋（伊藤組土建㈱建築部工事課所長）

森松 信雄（(独)北海道立総合研究機構建築研究本部建築性能試験センター安全性能部構造判定課課長）

代議員（2022.4.1～2024.3.31）

堀尾 浩（堀尾浩建築設計事務所代表）

深瀬 孝之（北海道科学大学教授）

代議員（2023.4.1～2025.3.31）

遠藤謙一良（㈱遠藤建築アトリエ代表取締役）

菊地 優（北海道大学教授）

支部監査（2022.6.1～2024.5.31）

米田 浩志（北海学園大学教授）

支部監査（2023.6.1～2025.5.31）

海藤 裕司（㈱日本設計札幌支社長）

総務委員長（2018.6.1～ ）

森 傑（北海道大学教授）

支部学術委員長（2022.4.1～2024.3.31）

谷口 尚弘（北海道科学大学教授）

支部 HP 管理委員会（2015.4.1～ ）

森 太郎（北海道大学教授）

支部事務局

菊地八重子（日本建築学会北海道支部）

（※印 常任幹事）

監査報告

2023 年度における一般社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2024 年 5 月 9 日

支部監事 _____

支部監事 _____

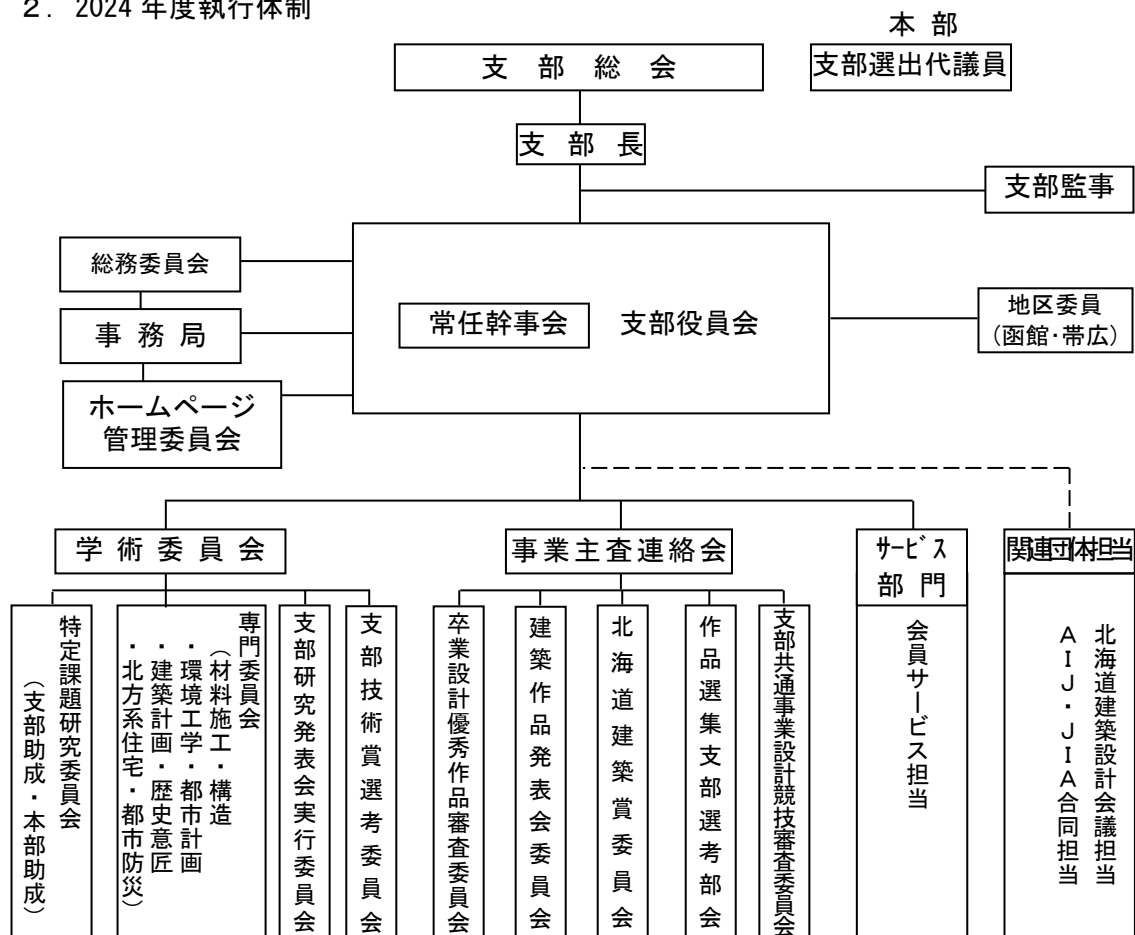
Ⅲ 2024 年度事業計画方針案

1. 活動方針

まずは、例年行われている事業（支部運営の諸会合の開催、受託研究の受託、支部研究発表会の実施、表彰、北海道建築作品発表会の実施、特別委員会、講習会・シンポジウム等の開催、本部関連事業・その他、建築関連団体との活動、共催・講演など）を行う。これらの事業を行うなかで、コロナ禍による学会活動の停滞回避に配慮し、オンライン技術を積極的に活用することにより、支部活動・研究活動の活性化、若手や女性の活用・ネットワーク化などを考慮して活動を進める。

支部活動の維持・活性化のために財政の強化に関して継続的に検討する。

2. 2024 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

新任支部長（2024.6.1～2026.5.31）

魚住 昌広 北海道科学大学教授

新任常議員（2024.6.1～2026.5.31）

金内 修一 大成建設(株)札幌支店建築部技術室長
笹島 幹広 (株)石本建築事務所主事
谷口 尚弘 北海道科学大学教授
千賀 順 (株)竹中工務店北海道支店設計部第2グループシニアチーフ
アーキテクト
西川 忠 札幌市立大学教授
米花 智紀 (株)米花建築製作所代表取締役
渡部 貴久 北海道札幌工業高等学校教諭

(※印 常任幹事は6月以降決定)

新任常議員は、支部役員選挙開票（2024年4月23日）により決定した。

支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(☆印 委員長)

北垣 亮馬, ☆金子 晋也, 高嶋 一穂, 宮崎 俊亮

留任常議員（2023.6.1～2025.5.31）

※北垣 亮馬 北海道大学教授
工藤 省吾 北海道建設部建築局建築保全課課長補佐
小柳 秀光 北海学園大学教授
照井 康徳 (株)照井康徳建築設計事務所代表取締役
古川 和洋 伊藤組土建(株)建築部工事課所長
※宮崎 俊亮 清水建設(株)北海道支店設計グループ長
森松 信雄 (地独) 北海道立総合研究機構建築研究本部建築性能試験
センター安全性能部構造判定課課長

新任代議員（2024.4.1～2026.3.31）

真境名達哉 室蘭工業大学教授
森 太郎 北海道大学教授

(2024年3月の本部選挙の結果、上記2名が選出)

留任代議員（2023.4.1～2025.3.31）

遠藤謙一良 (株)遠藤建築アトリエ代表取締役
菊地 優 北海道大学教授

新任支部監事（2024.6.1～2026.5.31）

堀尾 浩 堀尾浩建築設計事務所代表
(2024年4月の支部役員会で承認)

留任支部監事（2023.6.1～2025.5.31）

海藤 裕司 (株)日本設計札幌支社支社長

地区委員（2024.6.1～2025.5.31）

帯広地区委員 小野寺 一彦 設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員 山本 真也 元函館市教育委員会教育長

3. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2024年5月17日(金)
会場 オンライン開催

◆ 支部役員会 (複数回)

◆ 常任幹事会 (複数回)

◆ 選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

4. 学術系委員会

4. 1 学術委員会 (主査：森 太郎, 委員数：14名, 委員会開催予定数：4回)

本委員会は、本部学術推進委員会の情報を報告するとともに、各専門委員会・研究委員会から活動報告を受け、各委員会の活動の横断的な連携をはかる。また、支部長諮問事項についての検討、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、支部研究発表会と連動する技術パネル展の企画と運営、特定課題研究(本部・支部助成)の推薦、建築文化週間事業の募集と選考、北海道支部技術賞の募集と支部技術賞選考委員会の設置による選考、道内工業高校巡回講演会への講師派遣を行なう。その他、事業主査連絡会との横断的な連携をはかる。

第1回：本部学術推進委員会の報告。支部研究発表会の報告。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間事業の募集。特定課題研究の募集。

第2回：支部研究発表会に関連する内容の審議。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間企画および特定課題研究の承認。支部技術賞の募集。

第3回：本部学術推進委員会の報告。次年度の支部研究発表会の企画、各専門委員会・研究委員会の活動報告。支部技術賞選考委員会の設置。

第4回：支部研究発表会特別企画の決定。各専門委員会・研究委員会の活動報告。特定課題研究の結果報告。支部技術賞選考委員会による支部技術賞の表彰候補の選考。

なお、特定課題研究委員会は、次の通りである。

(継続：本部助成) 近現代建築研究委員会「小樽の戦後昭和の建築調査」主査：鈴木明世 2023-24

(新規：支部助成) 大工の熱環境調査委員会「住宅建設現場の労働衛生環境に関する基礎研究」主査：佐々木優二 君/2024-2025 (新規)

4. 2 専門委員会

◆ 材料施工専門委員会 (主査：谷口 円, 委員数：20名, 委員会開催数：3回)

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最新の施工現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。

具体的な活動予定は以下のとおりである。

- ・ 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- ・ 勉強会(話題提供)
- ・ 見学会の開催

◆ 構造専門委員会 (主査：千葉 隆弘, 委員数：21名, 委員会開催予定数：2回)

各種行事を企画して道内における構造分野の研究者・技術者との情報交換を行い、構造に関する研究調査を推進する。また、構造分野において、若手会員の学会活動への参加を支援する。更には、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮したこれらの活動の在り方や方法を模索する。

主な活動と時期など

- 1) 幹事会の開催：2回（9月，3月）。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては，Webまたはメール審議とする。
- 2) 講演会・講習会：2回程度。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止とする。
- 3) 見学会：2回程度。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止とする。
- 4) 勉強会：1回（委員会開催時）
内容は構造に関わらず幅広い分野を対象とする。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止とする。

◆環境工学専門委員会（主査：菊田 弘輝，委員数：17名，委員会開催予定数：3回）

- 1) 学位を取得した若手研究者等の研究発表の機会を設け，最新の研究動向を把握する。
- 2) 環境建築や最新の設備技術等を導入した建築の見学会を，他委員会と連携して開催する。
- 3) 第19回環境工学系・卒業論文発表会（EGGs'24）の開催を支援する。
- 4) 空調学会北海道支部主催の講演会ほか，本委員会の関係組織が主催する講演会，セミナー等を支援する。

◆建築計画専門委員会（主査：石橋 達勇，委員数：12名，委員会開催予定数：2回）

近年の札幌市やその他都市部における公共建築物の計画の現状や課題の把握を目的として勉強会や現地見学会を2～3回開催する。特に人口減少や少子高齢化の人口構造の変化に伴う社会的対応を背景として機能の再設定が求められた事例を対象に学ぶ。なお勉強会で収集した知見や課題は整理を行い社会に還元する。

◆都市計画専門委員会（主査：片山めぐみ，委員数：14名，委員会開催予定数：4回）

奇数月第3火曜日（5，7，9，11月）に開催する。産官学各分野に所属する委員構成が本委員会の大きな特性であり、情報交換して産官学連携・協働の可能性を模索する。2024年度は、札幌市南区真駒内駅前開発を対象に、「まこまない駅前まちづくり計画」に関する研究会や、駅前整備や団地売却からの民間開発等の先行事例について、当委員会に加えて他学会との合同研究会や公開研究会を2回程度開催し、都市ビジョンの提示などを目指したい。

第1回：5月21日（火）18：00～19：00

第2回：7月16日（火）18：00～19：00

第3回：9月17日（火）18：00～19：00

第4回：11月19日（火）18：00～19：00

（公開研究会等は委員会で検討）

◆歴史意匠専門委員会（主査：武田 明純，委員数：18名，委員会開催予定数：4回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として委託研究を含め社会や住民に貢献する体制を整備する。具体的には、建築文化週間事業として、講演会と見学会を合わせた「見学会「とち建築探訪「次代に残したい・語り継ぎたい建築を訪ねて」」を10月中旬に開催する予定である。

◆北方系住宅専門委員会（主査：真境名達哉，委員数：11名，委員会開催予定数：4回）

(1) 各委員が輪番制で寒冷地における住宅の最新の話題を提供する、また(2)例年行っている住宅見学会に関して、事前に勉強会を充実させるなど、委員会では、見学会を中心とした内容も一つの柱となるよう、企画している。

◆都市防災専門委員会（主査：竹内 慎一，委員数：17名，委員会開催予定数：1回）

■活動方針

委員相互の連携、地域との連携、防災関係機関との連携、他学協会との連携を強化するとともに、次の世代を担う若い人を育てていくための防災教育の充実を検討していく。

Web会議やSNSなどを活用した委員会活動の進め方を検討する。

■主な活動事業

- 1) 防災教育活動の情報交換、災害調査報告など委員相互の連携の強化
- 2) 地域の防災教育活動の実践による防災教育の充実と防災関係機関との連携強化
- 3) 災害時の北海道支部緊急連絡体制の整備と充実。

4. 3 特定課題研究委員会

(2024 年度より)

- ◆大工の温熱環境研究委員会（主査：佐々木優二, 委員数：4 名, 委員会開催予定数：複数回）
住宅建設現場の労働衛生環境に関する基礎調査を実施する。

4. 4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2023 年度より)

- ◆近現代建築研究委員会（主査：鈴木 明世, 委員数：6 名, 委員会開催予定数：4 回）
2023 年度の成果をもとに、小樽市建設部へ追加調査を実施予定である。また、小樽中央卸市場に関して、実測調査を行い、昨年度収集図面等と比較分析を実施する予定である。小樽市の近現代建築の価値を検討し、北海道における同時代の建築研究の先行事例とする。
成果報告：2026 年度支部研で報告（D 原稿）予定

5. 支部研究発表会

5. 1 支部研究発表会実行委員会（主査：齊藤 雅也, 幹事：金子 晋也, 坪内 健, 齊藤 隆典；委員数：20 名, 委員会予定回数：5 回）

本委員会は支部研究発表会の企画・運営を目的として以下の項目を実施する。

- 1) 支部研究発表会の日程・会場の決定
- 2) 支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の決定
- 3) 日本建築学会 HP 論文検索システムに対応するための電子投稿時記載事項の改善
- 4) 論文執筆要領の作成と論文原稿の募集
- 5) 発表会での特別企画の企画・実施
- 6) 論文原稿の受付および編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成
- 7) 支部研究報告集の様式の検討・作成および発行
- 8) 支部研究発表会の実施
- 9) 優秀講演奨励賞の実施

支部研究発表会の実施計画

第 97 回北海道支部研究発表会

日時：2024 年 6 月 29 日（土）一般研究発表会，特別企画

会場：札幌市立大学（北海道札幌市南区芸術の森 1 丁目）

原稿提出締切：2024 年 4 月 11 日（木）17 時（電子投稿受付）

発表登録システム HP：<https://www.gakkai-web.net/p/aij/hokkaido/new2.php>

支部研究報告集 No.97（PDF 形式）を発行

6. 表彰

6. 1 北海道建築賞（主査：小澤 丈夫, 委員数：5 名, 委員会開催予定数：複数回）

(1) 賞の概要

建築作品を支える「先進性」「規範性」「洗練度」の 3 つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰と受賞者による記念講演会を行い、北海道における建築創作活動の一

層の促進を図る。

(2) 北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

- 1) 第 49 回北海道建築賞の応募期間：2024 年 4 月 15 日（月）～5 月 15 日（水）
- 2) 審査期間：5 月上旬（応募状況の確認）～6 月中旬（書類審査）～7・8 月（現地審査）～9 月上旬（最終選考）
- 3) 結果発表：9 月下旬（常議員会での承認後）
- 4) 北海道建築賞表彰式および受賞記念講演会 10 月下旬予定

(3) 委員構成

委員 5 名で委員会運営を行う。

小澤丈夫（北海道大学：主査）他 4 名。

6. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）（主査：小倉 寛征，委員数：6 名，委員会開催予定数：1 回）

(1) 賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工業高校の優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育および技術の向上を図る。

(2) 卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2024 年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2023 年度と同様、2024 年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、表彰の目的、審査の考え方を確認した上で「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に金、銀、銅の各賞を選考する。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6. 3 卒業優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

6. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に関わって、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7. 1 北海道建築作品発表会委員会（主査：植田 暁，委員数：5 名，実行委員数：7 名，委員会開催数：5 回（実行委員会 2 回プレフォーラム 1 回を含む）

作品の募集時期を 9 月中旬、作品発表会の開催時期を 11 月下旬から 12 月上旬の、それぞれ週末に想定している。本年は遠友学舎を想定しつつ、参加者数の増加が可能かつ、インターネットの同時配信が可能な会場を広く求めたい。この他、第 44 回建築作品発表会作品集 VOL-44 の刊行、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」と、日本建築学会「建築雑誌」における実施報告を計画している。

7. 2 第44回北海道建築作品発表会

第44回北海道建築作品発表会の実施予定

作品登録締め切り：9月中旬から下旬

作品集原稿締め切り：10月上旬から中旬

作品発表会開催時期：11月下旬から12月上旬

作品発表会開催場所：会場未定またはオンライン開催

8. 特別委員会

8. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業主査連絡会担当常議員，必要に応じて開催）

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中で、適宜事業を把握し、役員会へ報告提案をおこなう。それぞれの事業は印刷物やHPで公表するとともに支部事業の活性化を検討する。

8. 2 総務委員会（委員長：森 傑，担当常議員，委員会開催予定数：1回）

委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し、財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により、支部の財政状況がさらに困難さを増していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに事務局業務の効率化、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会（2024年度）

委員長：森 傑 北海道大学

委員： 担当常議員

8. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎，委員数：2名，必要に応じて開催）

2024年度は以下の活動を予定している。

- 1) 常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なう。
- 2) Facebook ページへのイベント周知，報告を行う。
- 3) 会議資料等のアーカイブ手法の検討。
- 4) 支部HPのシステム更新を行う
- 5) 支部HPのデータアップロードに関してアルバイトによる作業を行う。

8. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子 café）（主査：野村 理恵，委員数：12名 委員会開催予定数：複数回）

引き続き、オンラインイベントの開催を企画する。より広く道内の学生に参加を募ると同時に、実施時期や対面イベントとの連携等について検討する。また会員やこれまで登壇頂いた方々との交流機会についても検討を予定している。

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9. 1 本部主催講習会

2024年度本部主催支部共通事業、委員会主催講習会を開催する予定。

9. 2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9. 3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9. 4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10. 1 2024年度支部共通事業設計競技の実施（主査：松島 潤平，委員数：5名， 委員会開催予定数：1回）

2024年度設計競技審査委員会は、主査：松島潤平、委員：赤坂真一郎、久野浩志、小西彦仁、山之内裕一の計5名の審査委員にて行う予定である。

2024年度の課題は「 commons の再構築—建築、ランドスケープがもたらす自己変容」と決定され、7月中旬に支部審査を1回行う予定である。

2023年度の応募総数は11案で、前回応募数からは増加した。4案の支部入選案のうち1案は全国審査において入選を果たした。今後の更なる応募数増加を期待したい。

10. 2 作品選集支部選考部会（主査：松島 潤平，委員数：7名， 委員会開催予定数：複数回及び現地審査）

2021年度から応募資料は全部電子データになっており、委員全員で詳細に応募資料を検討が可能となった。応募ファイルに基づく1次審査、さらに現地審査をふまえての2次審査を行ない、支部として作品選集委員会に推薦する作品を選出する。作品選集の主旨にかなう建築を、意匠・環境・構造など各分野の委員相互の十分な議論を通して選ぶとともに、本部での選考審査に耐える、北海道の価値ある建築が作品選集の掲載に至るよう評価を行い、本部へ推薦するものとする。

10. 3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の3件を予定している。

1. 「とから建築探訪「次代に残したい・語り継ぎたい建築を訪ねて」（歴史意匠専門委員会）
2. くしろ防災屋台村（都市防災専門委員会）
3. 第49回北海道建築賞表彰式・記念講演会（支部主催）

11. 建築関連団体との活動

11. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：5名，委員会開催予定数：1回）

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、両団体の活動についての情報交換および合同企画について協議する。ジョイントセミナーについては継続して行うように計画を進める。

11.2 北海道建築設計会議

10 団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

IV 2024年度収支予算案

2024年度 予算書（正味財産増減計算ベース） 北海道支部

科 目	2024年度予算額	2023年度予算額	前年度比 (増 減)
I. 一般正味財産増減の部			
1. 他会計からの振替額			
本部からの交付金	(7,256,000)	(6,740,000)	(516,000)
支部費	1,614,000	1,618,000	▲4,000
経営助成費	1,830,000	1,860,000	▲30,000
事業促進費	300,000	300,000	0
支部研究補助費	200,000	200,000	0
建築文化事業費	548,000	556,000	▲8,000
大会交付金	-	-	0
支部事務費	300,000	300,000	0
支部事務所費	2,464,000	1,906,000	558,000
他会計からの振替額計 (A)	7,256,000	6,740,000	516,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰関係事業	175,000	175,000	0
その他事業会計	(2,232,000)	(2,232,000)	(0)
研究集会事業	(2,232,000)	(2,232,000)	(0)
支部研究発表会	1,062,000	1,062,000	0
建築作品発表会	1,150,000	1,150,000	0
過年度研究集会	20,000	20,000	0
大会（全国大会）	-	-	0
法人会計	(51,000)	(51,000)	(0)
特定資産運用益	(1,000)	(1,000)	(0)
特定資産運用益	1,000	1,000	0
雑収益	(50,000)	(50,000)	(0)
受取利息	-	-	0
雑収益その他	50,000	50,000	0
経常収益計 (B)	2,458,000	2,458,000	0
[経常費用]			
実施事業会計	(1,950,000)	(1,845,000)	(105,000)
調査研究事業	(740,000)	(740,000)	(0)
調査研究事業	740,000	740,000	0
表彰・顕彰事業	(760,000)	(760,000)	(0)
表彰関係事業	720,000	720,000	0
設計競技事業	40,000	40,000	0
社会対応事業	(450,000)	(345,000)	(105,000)
文化事業費	420,000	315,000	105,000
展示事業費	30,000	30,000	0
その他事業会計	(2,150,000)	(2,150,000)	(0)
研究集会事業	(2,150,000)	(2,150,000)	(0)
支部研究発表会	1,000,000	1,000,000	0
建築作品発表会	1,150,000	1,150,000	0
大会（全国大会）	-	-	0
法人会計	(7,014,000)	(6,261,000)	(753,000)
支部運営	(120,000)	(170,000)	(▲50,000)
總會	60,000	110,000	▲50,000
常議員会	40,000	40,000	0
その他運営費	20,000	20,000	0
事務運営	(6,894,000)	(6,091,000)	(803,000)
給与手当	2,216,000	2,210,000	6,000
退職給付引当金繰入	60,000	60,000	0
法定福利厚生費	401,000	401,000	0
福利厚生費	30,000	30,000	0

2024年度 予算書（正味財産増減計算ベース） 北海道支部

科 目	2024年度予算額	2023年度予算額	前年度比 (増 減)
通勤手当	184,000	184,000	0
旅費・交通費	20,000	20,000	0
通信・回線費	130,000	130,000	0
発送・運搬費	25,000	25,000	0
消耗品費	40,000	40,000	0
印刷費	45,000	45,000	0
会議費	15,000	15,000	0
地代・家賃	3,215,000	2,061,000	1,154,000
水道光熱費	303,000	660,000	▲357,000
支払手数料	25,000	25,000	0
賃借料	135,000	135,000	0
雑費その他	50,000	50,000	0
経常費用計 (C)	11,114,000	10,256,000	858,000
当期経常増減額 (A) + (B) - (C)	▲1,400,000	▲1,058,000	-342,000
当期一般正味財産増減額	▲1,400,000	▲1,058,000	▲342,000
一般正味財産期首残高	28,845,000	32,148,000	▲3,303,000
一般正味財産期末残高	27,445,000	31,090,000	▲3,645,000
指定正味財産期末残高	-	-	0
正味財産期末残高	27,445,000	31,090,000	▲3,645,000

<注記>

2024年度の「一般正味財産期首残高」は、2023年11月時点における2023年度決算見込数値による

**支部特定資産積立と取崩の実績と予定
(2023年度実績 2024年度予定)**

	2023年度 特定資産積立・取崩 実績				2024年度 特定資産積立・取崩 予定		
	2023年度 期首残高	2023年度 積立	2023年度 取崩	2023年度 期末残高	2024年度積立	2024年度取崩	2024年度期末残高
学術振興基金引当資産	4,200,000円	4,000,000円	△90,000円	8,110,000円	0円	△90,000円	8,020,000円
支部基金引当資産	2,610,000円	8,000,000円	0円	10,610,000円	0円	△3,700,000円	6,910,000円
災害調査研究基金引当資産	1,900,000円	4,000,000円	0円	5,900,000円	0円	0円	5,900,000円
退職給付引当資産	1,320,000円	60,000円	0円	1,380,000円	60,000円	0円	1,440,000円
合計	10,030,000円	16,060,000円	△90,000円	26,000,000円	60,000円	△3,790,000円	22,270,000円

【2023年度 積立・取崩(実績)】

① 2022年度大会剰余金の積立について(計1,600万円の基金積立)

- 1) 支部基金: 800万円 支部事務所移転費用、その他突発的に多額の費用を要する事態に備えて汎用性の高い支部基金に800万円を積み立てた。
- 2) 災害調査研究基金: 400万円 甚大な被害をもたらす大災害が発生した場合の支部独自の災害調査費用に充てるため400万円を積み立てた。
- 3) 学術振興基金: 400万円 支部活動の今回である調査研究活動の支援および特定課題に充てるために400万円を積み立てた。

② 通常事業の積立と取り崩しについて

- 1) 学術振興基金引当資産: 特定課題研究委員会「北方型住宅オープンカーリング研究委員会」のため、90,000円を取り崩し。
- 2) 退職給付引当資産: 2023年度職員退職給付引当金として60,000円を積立。

【2024年度 積立・取崩予定】

- 1) 学術振興基金引当資産: 特定課題「大工の温熱環境調査委員会(2024-2025年度)」のため、90,000円を取り崩し。
- 2) 退職給付引当資産: 2024年度職員退職給付引当金として60,000円を積立。
- 3) 支部基金引当資産: 支部事務所移転に伴う諸費用充当分として3,700,000円を取り崩し。

◆法人正会員

会員社名・団体名

会員社名・団体名

伊藤組土建(株)
 岩倉建設(株)
 岩田地崎建設(株)
 (株)岡田設計
 亀田工業(株)
 鹿島建設(株)北海道支店
 (株)熊谷組北海道支店
 (株)日建設計北海道オフィス
 丸彦渡辺建設(株)
 大成建設(株)札幌支店
 宮坂建設工業(株)
 (株)竹中工務店北海道支店
 五洋建設(株) 札幌支店
 東急建設(株) 札幌支店
 (株)久米設計札幌支社
 (株)サンキット・エーイー
 (株)コバエンジニア
 (株)土屋ホーム
 (株)田辺構造設計
 北農設計センター

戸田建設(株)札幌支店
 (株)巴コーポレーション札幌支店
 日鉄セメント(株)
 日本データサービス(株)
 (株)日本設計札幌支社
 日本防水総業(株)
 (株)三菱地所設計北海道支店
 (株)アトリエアク
 (株)中原建築設計事務所
 積水化学工業(株)
 (株)ドーコン建築都市部
 北海道建築設計監理(株)
 北海道コンクリート工業(株)
 清水建設(株)北海道支店
 (株)田中組
 (株)三暁プレコンシステム
 (株)北海道不二サッシ
 (株)アトリエブク
 (一財)北海道建築指導センター
 (株)フィルド

◆賛助会員

会員社名・団体名

北海道電力(株)
 星槎道都大学附属図書情報館
 北海学園大学附属図書館



一般社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0002 札幌市中央区北2条西3丁目1
太陽生命札幌ビル 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://hokkaido.aij.or.jp/>